

第4回 霧島リノベーションまちづくり戦略会議 2020 議事録

日 時 令和3年2月21日（日）17:00~19:15

場 所 霧島市役所 1階共通ロビー

会議参加

須部貴之、増田泰博、有村健弘、松本一孝、大西正将、徳永功一郎、奥野貴大、白水梨恵、日永田剛、酒井良（リノベリング）、橋口・安藤（bananaworks）、中重市長、山口副市長、市職員（谷口部長、池田課長、梶G長、西村サブリーダー、山田、勘場、宮之原、東、徳田）
タスクフォース：有馬（都市計画課）、藤田（地域政策課）、堀内（財産管理課）、橋内（建築指導課）

参加者数 計102名（オンライン参加50名、一般参加16名、市議会議員3名、委員等12名、市職員21名）



須部 今日 YouTube 配信もしておりますのでカメラがあります。既に 20 名ほどの方に観ていただいています。YouTube のみなさまもよろしくお願い致します。コメントもいただければあとで質疑応答もできると思いますのでよろしくお願い致します。まず初めに霧島リノベーションまちづくり戦略会議、みなさんにはパンフレットお渡しさせていただいております。一年くらいかけてこのパンフレットを作り上げてきました。これまでの経緯や今回の戦略会議の趣旨も説明させていただければと思います。申し遅れました私、株式会社 KISYABAREE、鹿児島市の騎射場を拠点にまちづくりの会社を運営しております須部と申します。今日は一日司会進行をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて戦略会議の目的とゴールについて早速ご案内させていただければと思います。霧島をいっしょに作りたいということで新しい暮らし方について、もう半年以上ここにいらっしゃる委員の皆さんと話を進めてまいりました。霧島市がこれから目指すべきビジョンとコンセプトとともに4つの戦略をパンフレットに書いていますのでみなさん見ていただければと思います。4つの戦略と市民が欲しい暮らしを自ら叶えるプロジェクトを霧島リノベーションまちづくり推進ガイドラインとして今日発表させていただくという機会になっています。半年前ですね、9月に行われました山形屋さんの後ろにある広場をお借りして第1

回目の戦略会議をさせていただいたんですがその時に霧島を一緒につくりたいということでこちらの文章があります。そもそもなぜ霧島リノベーションまちづくりを行うかということが書いてあります。読み上げますね。

「減る人口、増える空き家、空き店舗、増えるマンション、低下する地価、衰退するコミュニティ。霧島市だけでなく、全国の都市で同じような現象が起こっている。この状況を悲観的に捉えるか、チャンスと捉えるか、それは人それぞれだろう。しかし、10年後の「あなた」にとって霧島の暮らしはどうなっているだろう。行きつけのお店、子どもが集まる公園、懐かしいあの味、いつもの街並み。想像する未来の霧島の暮らしは、少なからずより楽しく、より豊かなものであったはずだ。このまちには、他のまちにはない魅力的な地域資源がたくさんある。しかもそれは、外から見れば羨ましく思うほどの量と質。この際一層のこと、ないものをねだるより、今あるものを見つけて活かすという、発想の転換を試みるのはどうだろうか。霧島には【 】がある。今浮かんだ資源には、すでにこのまちの兆しかもしれない。今できることを、今ある【 】でやってみる。たとえその一歩が小さくても、その一歩はあなたが想像した未来の霧島に近づく、大きな一歩になる。ほしい暮らしは自分でつくる！さあ、霧島をワクワクさせよう！」

ということで走ってきて今日、この場があるということです。今日の流れですけれども、少しみなさんが柔らかくなるような場を作らせていただいて。今日は霧島市長もきていただいています。霧島市長も先陣に立って、霧島リノベーションまちづくりと一緒に作ろうと来ております。後ほどご挨拶をいただきます。今日は2部構成になっていまして、第1部が霧島リノベーションまちづくりのガイドラインということでこの半年間どういう話し合いを委員でできてきたかという戦略が立ち上がったかというのを発表させていただきます。後半はそのガイドラインに沿って委員のトークセッションという形を持ちまして最後クロージングアクトということで私がまとめさせていただきます。会場の皆様、YouTubeをご覧になっている皆様にひとつお願いしたいことがありまして、全集中、全員参加でお願いします。まず温かいガヤ大歓迎です。シーンとなると委員の皆さんも話しぶりです。先ほどのような温かいガヤをお願いします。あと反応などマシマシでお願いします。ここに立って話をするとものすごく緊張します、なので多少でもうなずきをお願いします。特に行政の方をお願いします。最後わちゃわちゃした雰囲気ということですが、まちづくりってやっぱり楽しんでもらうもの、新しいことって楽しい発想から生まれてくると思うので。わちゃわちゃしながら、掛け合いながらしていただければと思います。YouTubeご覧の方もコメント拾っていくのでどしどしコメントをお願いします。先ほどから出ているワードで「リノベーションまちづくり」とありますがこれはなんだということでもまずリノベーションって何。ということから紐解いていきますと、リフォームとは違い、形をもう一度作り直すことではないということですね。リ・イノベーション、革新であるとか考え方、コンセプトそれぞれ戦略を立てるといところでリノベーションという言葉を使わせていただいております。

す。リノベーションというのは建築行為だけではなくて、経営とかマネジメント、マーケティングしたりをまちづくりに活かしていこうというところなんです。なのでリノベーションとまちづくりという言葉が掛け合わさると今ある空間資源だけではなくて、潜在的にまちに存在するヒト、文化、環境、歴史的資源を再編集して今の時代にどういったものが使えるだろうかということを考えながらクロスしていただければいいかなと思います。



今までは公主導の大きなまちづくり、大きい建物を建てたりだったものが、民間主導の住んでいる我々がどういったものが必要か考えてまちづくりしていくという先ほど読んだ文章にもありましたけれども、ないものねだりのまちづくりからあるものみつけ、今あるものを活用しようという当事者たちのまちづくりの時代だよねという感じです。これまで戦略会議を6

月から始めまして8月に8名の委員の皆さんをこちらからお声掛けさせていただきました。9月に第1回目の戦略会議をさせていただき、2回目は40人くらい集まっていたいで会議しました。3回目は委員で行って4回目今回ということになります。それぞれどんな風景だったかといいますと、1回目山形屋の後ろで行わせていただいてその時も市長にお越しいただいてコメントいただきました。また今日も来てますけど田代さん。1回目の時に出会いまして。YouTube ご覧の方は会場の隅のほうにこれを描いてくれた女性の方がいらっしゃいます。これグラフィックレコードというんですけれども。もともと絵を描いていて、これ描いてみたら、ということで翌日送ってきていただいて第1回目の会議のことを取りまとめていただきました。第4回目も描いていただけということで今日もよろしくお願ひします。第2回の戦略会議というのはみなさんの耳になじんでらっしゃると思いますけれどもSDGsという持続可能な地域の開発目標ということで国連が定めております。そのSDGsを知って世界とつながり霧島の都市経営課題を抽出するというのでそこから霧島の人たちのつながりをつくっていこうということでこの場を作って、SDGsカードゲームをやってくれた野崎恭平くんもどこかにおります。野崎さん今日もよろしくお願ひします。これまでいろんな方が関わって今に至るということです。SDGsカードゲームを第2回で行いまして弱みを抽出したりとか霧島の課題って何だろうというのをみんなで考えたりとか。じゃあ私たちが霧島でやりたいこととかやれることってなんだろうというのを考えてきました。そこからプロジェクトの種を生み出す。参加者40人分くらいの種を生み出していったということです。その時もグラレコ残していただきました。YouTubeをご覧の方はアーカイブ残ると思うので見ていただければと思います。本当は4回で終わる会議だったんですけども、2.5回ということで霧島の参考になる先進事例を見たいよねということで、愛知県岡崎

市と静岡県沼津、熱海に行ってまいりました。すごく面白い事例で2.5回会議で共有させていただいて、霧島だったらこういうことがいかにされるんじゃないかという会話をしてきました。第3回の戦略会議でSWOT分析ということで行政と民間と一緒に何ができるだろうということでマーケティングの手法なんですけれども、強み弱み、イノベーションどうやって起こすのとかそこでいろいろ皆さんに考えを出していただきました。それでちょっと情報足りないよねということで3.5回やりました。年明けに集まって戦略のコンセプトとか未来の霧島のファンとか戦略のキーワードとかボリュームのあるワークショップをさせていただきました。何が言いたいかといいますと、委員の皆さんすごく頑張っていたということです。お金をもらっているわけではなく、ボランティアでコミットしていただいています。霧島を良くしたいという思いで30、40代の人たちで集まってこれからの霧島をどうしていけばいいのかというのを真剣に向き合って考えていただきました。オープニングは以上になります。ここで主催者代表ということで中重市長よりコメントいただきます。

市長) みなさんこんばんは。今日は第4回目霧島まちづくりリノベーション会議。日曜日の夕方なのにこんなに多くの方に集まっていただきうれしく思います。先ほど須部さんからもありましたように今日のこの会議はオンラインで配信されています。ここにお越しの方以外にたくさんの方に参加していただいていることを本当にありがたく感じています。このリノベーションまちづくりは令和元年から取り組んでおります。この霧島市が抱える様々な課題、都市の空洞化であったり人口の減少といったものについて行政だけでなく、民間の方と一緒に霧島の課題を解決していこうというのがリノベーションまちづくりではないかと考えております。行政と民間の垣根を越えるためでしょうか、今回珍しい注文がつきまして。ここにくるときはノーネクタイで来てください、できればノーネクタイどころからラフな格好で来てくださいということで、先ほどあったガストロノミーは私ネクタイをしてスーツを着てたんですが、家に帰ってこの格好に着替えてやってきました。なかなか私服を披露することはないので、貴重な機会かなと思います。第1回目の時の会議もそうでした。ないものを行政が新たに作るものではなく、あるものをみんなで有効活用していく、あるものを活かすリノベーションの取り組みは本当に大切なことだと思っています。いろんな面でもこれを霧島市は活用しているところです。例えば企業誘致。以前は市が工業団地を作ってそこに企業を呼び込んでいました。企業誘致とかそこにかけては御膳立てをするというのが中心でした。もちろんそういった企業誘致も必要なんですけど、空いている土地を行政が買わなくても民間にそこを紹介していく、というのもあるものを有効活用するというものにつながるのかなと自分では考えています。8名の委員の皆さんには今年いろいろお世話になりました。今回が最後の戦略会議になりますが、最後というよりもこれから民間と行政と一緒に霧島市を作っていく始まりの一步になるんじゃないかなと思います。今日の会議が、これからいろんなことに挑戦しようとしている方の後押しになるように、そしてそういった志を持った方が多く集って出会いにつながり、そしてリノベーションまちづくりを通

して霧島市が大きく発展していくことを祈念しましてあいさつと致します。今日はよろしくお願ひします。

須部 市長ありがとうございます。それでは早速でありますけれども第1部としまして霧島リノベーションまちづくり推進ガイドラインの発表、これ案となっているのは発表は3月以降になるのかな。仮の案を発表させていただいて微調整して本発表という形になっております。では宮之原さんお願いします。

宮之原 みなさんこんにちは。そこから会場の方見えませんが、たくさんの方がいらっしやっけてびっくりしました。私の方から今年度作ってきた推進ガイドラインの案ということで結果をみなさんにお披露目したいなと思います。私、商工振興課の宮之原と申します。先ほどこれまでの経緯、会議の内容について須部さんからありましたので割愛させていただきますが、今回第4回目の会議なんですけれども延べ7回目の会議ということで委員の皆様には大変お世話になりました。6回の会議を経て推進ガイドラインというものを作り上げましたので、そちらのほうを皆様にご説明させていただければと思います。目次として5つの項目あります。最初に現状と課題とか、どういう風にまちを変えていくのかとかいうのをご説明させていただければと思います。

グラフが続くんですが、左の図ですね。合併以降の人口で色が10代、20代、30代、それ以外ということになっているんですが、合併以降10代～30代の人数が15年間で8,500人くらい減少しています。折れ線グラフのほうも年代別、5歳ごとの年齢別で出しているんですけれども、その中でも特に20代の人口が特に減っています。右側の人口で赤と黄色で示している図な



んですが、20代合わせて4,736人が人口として減っているということになります。20代が減るにつれて0～4歳の人口も減っているような状態で今後20～30代の人口が霧島市減り続けると子どもの数も減り続けて、より少子高齢化が加速していくというような現状です。続いて、卒業見込みの学生にアンケートしました。なぜ霧島市で就職しないのかということでトップ2が希望する企業がないから、都会の生活が魅力的だからということで、せっかく霧島で育った学生が霧島に就職しないという状況が続いています。また若者が就職したい場所・業種を聞いています。1位、2位、3位が公務員、医療福祉、製造業これらは霧島市でもカバーできていると思うんですけれども4番目にでてくる情報通信業は145人の方が希望しているんですが、右手の霧島市の業種別事業所数で情報通信業は20社くらいしかいない。若者が地元で就職する機会の損失というものがここで起きているんじゃないかと考

えられます。続いてまちなかなんですが、空き店舗の数はあんまり変わっていないようなんですが、建物の数どんどん壊されて空き地になっていっている状況で、空き店舗率はずっと上がり続けている状況です。この 24.2%という数字は鹿児島県内でも高い数字となっています。それに合わせてエリアの地価を表すグラフになるんですが、青いグラフが商業地の最高値となります。平成 20 年から 30 年の間で 40%下落している状況です。また空き店舗だけではなく空き家の数も増えています。霧島市が赤色のグラフですね。21%、県が 19%。全国平均が 13.6%ということで全国平均よりも高い数値となっています。次に地区別ですが国分と隼人地区がどちらかというと空き家の数は割合としては少ないのかな、多いのは中山間地域がやはり空き家の数が多い状況になっています。さらに霧島市の懐事情ですが平成 19 年、24 年、29 年の財政状況なんですが、自主財源というのが市民税とか固定資産税とか国から入ってこない市が直接徴収する収入です。義務的経費というのが市の経費のうちの扶助費だったり人件費だったり必ず発生する経費になっているんですが霧島市の場合は義務的経費よりも自主財源のほうが少ない。大体 6 割くらいしかないというところで、不足する分は国のほうから交付金を受けてやっている状況です。少子高齢化により、この義務的経費というものがさらに膨らむ可能性があります。もう一つ大きな問題が、公共施設の数が合併によってかなり多くあります。他のまちに比べても延べ床面積が多い状況でして、今後年間 34 億円不足していく。この維持管理費をどう捻出するかということが課題になっています。これまでのまとめになりますが、20 代人口が減少している、空き店舗率多い、商業地地価減っています、空き家も増えています、財政自立度も低い、お金足りませんというような悲観的なデータがあるんですが、これをどういうふうに解決していくかを私たちは考えなければなりません。先ほどは今までの現状なんですけど、実際の霧島の本質的な都市経営課題は何なのか、というところを書いてみました。まちなかが赤いほうですね、左側は中心市街地の流れです。まちなかは空き店舗が増えているというのは新規出店者の減少が一番大きいんじゃないかとそれによって商店街の高齢化だったり、街路等の維持管理費も捻出できない感じです。マンションが国分のまちで増えています。子育て世代が流入していて、若い方が入ってきているように見えるんですけど、買い物する場所がない、遊ぶ場所がない、安全がない、コミュニティがないという感じで郊外の隼人見次方面に人が流れる状況です。併せて中山間地域についてももちろん過疎が大きな原因なんですが、住民の高齢化によって空き地が増加したり、一次産業の高齢化ということで農地山林の放置だったり、鳥獣被害や太陽光の増加にもつながる。UI ターンの流入はあるんですが、中山間地域、まちなかも食料品を買うところがないとか働く場所がないとか学ぶところがないとか移手段がない、ネット環境が悪いという感じで郊外に人が流れる。プラスロードサイドのお店で皆さん買い物されるので東京資本といいますか、郊外にお金が流れていくような状況です。この状況が霧島市全体のヒト・モノ・カネの循環機能が低下し、停滞しているというのが霧島市の大きな都市経営課題なんじゃないかなと思います。ここをどう解決していくのかということとを皆さんと話し合っただけで挽回策を考えてみました。まず霧島の強みです。やはりここが一番大

きいかなと感じました。圧倒的な自然、普通の田舎の自然ではなくて国立公園やジオパークもありますし、圧倒的な自然と国分隼人っていう都市が隣接しているというところが一番大きな強みなんじゃないかなと思います。車で30分で海山川温泉など自然が楽しめる、とにかく自然が豊かで住みやすい。子育てしやすいところ、自然の中で遊べるっていうのは子どもにとってもいいですし、そういったところが霧島市の強みだねっていう声が上がっています。もう一つは合併前の市町村ごとに特産品や観光独自の特色がある。先ほどのガストロノミーの話がありましたけど霧島市は一つに選びきれないほどの素晴らしい素材がたくさんある。それが市町村ごとにあるというのはすごく良いことですし、合併前の旧市町村でもっていることが霧島市の強み、多様性があるということです。もう一つはヒトです。7回もボランティアで時間を抑えていただいて霧島市のことを考えていただいている若い、面白い人たちがいるというのが霧島市の強みなんじゃないかなというところです。こういった霧島市の兆しですね、先ほどネガティブなことを話しましたが若者の割合は今のところ維持傾向で、若者の数は少し増えている状況です。コロナも後押ししているんですが、東京一極是正とかローカル注目があります。あとは創業者数も増加しているような状況で中山間地域を中心に新しいお店増えているんじゃないかと思っています。こういった兆しを見逃さずどういう風にまちの都市経営課題を解決に向かわせるかというのが今回リノベーションまちづくりの大本質なんじゃないかと思っています。続いてまちの未来ですね。3.5回会議で委員の皆さんと話をして霧島の未来の風景ということで、白水さんにストーリーをつくっていただきました。数年後のまちなかの風景というものを作っていただいたので、朗読をしていただきたいなと思います。

白水) 霧島市の数年後がこうなったらいいなというのをイメージして書かせてもらいました。

数年後のまちなかの風景

僕は子どものころからわりと要領がよくて、受験も第一志望だった東京の大学に進むことができた。サークルを立ち上げたり、バイトでリーダーを任せてもらったりして、自分と言うのもなんだけど周りからは一目置かれるようなタイプ。就職活動でもそこそこの企業から内定をもらった。正直、満員電車は嫌だし、妥協した感はある。でも良い給料もらって安泰な生活を送るのが”勝ち組”ってやつなんだろう。そんな僕の思い込みは意外すぎる場所で打ち碎かれることになる。

お盆にあわせて霧島の実家に帰省した僕は、地元の友達に連れられてとあるトークイベントに参加したんだ。着いて早々驚いた。会場は野外。街角のちょっとした芝生広場が、夕暮れの中煌々といくつものライトで照らされていて、そこにはたくさんの人が集まっていた。

登壇者は霧島で暮らす地元の人たち。会社員仲間で音楽やアートのイベントを主催する男性。東京と霧島で2拠点生活を送るWEBエンジニアの女性はどう見てもまだ20代。

毎朝釣りをしてから出勤し、休日は家族でアウトドアを楽しむ 30 代は、霧島産食材を海外で販売しているらしい…

目を輝かせながら自分とまちの未来を堂々と語る彼らを見て、僕は「悔しい」と思った。田舎だと決めつけてきた霧島に、こんな大人たちがいたなんて。

「…”勝ち組”の人生ってなんだ？そこにいる自分は幸せなのか？」

子どものころに思い描いた将来の自分はどんな姿をしていたらうか。会場からの帰り道、ぼーっと夜空を見上げながら、子どものころの自分自身に想いを馳せる。「もしかしたら、心の奥底でずっと探し求めている未来は、すぐ足元にあるのかもしれない。」



宮之原) ありがとうございます。こちら委員の方も初めてご覧になるかと思えます。こんな感じで今回はまちなか編でしたけど、海辺の風景だとか里山の風景だとかそういったものを今、作成依頼しているところです。また3月にガイドライン案を手にする頃には紹介できるかなと思っています。併せてこのイラストですが、先ほどのペイントしていただいている田代さんが描いてくれたのでガイドラインに掲載したいなと思っています。先ほどの風景を実際描いて終わるのか、実際に実行して風景を作り出そう、そのためにどういうふうにやっていくか実現のためのコンセプトを LIVE KIRISHIMA という形でこちらの戦略会議の中で決めさせていただきました。ライブという発音をさせていただいていますが、ほかにリブというものがあって、生活している、生きているとか、暮らしている、活動している、生のかいという意味があって、霧島の自然風景にマッチしているんじゃないかなと思います。こういったロゴとコンセプトを掲げて霧島リノベーションまちづくりを進めていきたいと思っていますんですが、実際霧島で活躍する若いデザイナーにこのロゴマークを作っていただきました。黒のストライプなんですけど、シンボルマークに思いを込めていただきました。戦略会議ずっと出ていただいて委員の方々の思いを引き継ぎ、このシンボルマークに詰め込んだということになっていますのでその思いをデザイナーの方にご説明いただきたいなと思っています。

橋口) みなさん初めまして。LIVE KIRISHIMA のロゴ制作を担当させていただいた橋口と申します。こんな大勢の前で話すのが初めてなので緊張しているんですが、このロゴはですね須部さんが3.5 回会議がゲリラ的に決まってそこで LIVE KIRISHIMA っていう名前が決まりました。まちづくりの名前を決めているさなか、バナナワークスの安藤がそこにいるんですけども会議中に安藤が手を動かしながらまさにライブ感のあるロゴが出来上がりました

た。四角のストライプと LIVE KIRISHIMA を掛け合わせてこれがロゴマークとなります。ターゲットは委員の皆さんと行政の皆さんと全員で固めた次世代の霧島を担う人材を敏感でクレバーな若者層。これどういうことかという今ここにいる霧島のまちづくりを担っている委員の皆さんの次世代。次の委員候補になりうる人たちに



届くようにロゴを作りました。ロゴマークを作るときにバナナワークスとして3つの指針を決めています。まず、霧島のまちづくりのロゴなので、霧島らしさがあること。今回ターゲットが次世代の霧島を担う存在、若者層に響くようなもの。そして今回バッジを作ってみなさんにもお配りしたんですけど、このロゴを掲げてまちづくりをしている自分を誇れるカッコいいロゴであること。ここが一番大事にしたところなんですけど持続可能な発信ということでまちづくりのロゴなのでここにいる皆さんにも今後活用していただきたいと思います。ロゴデザインもプロしか使えないような複雑なものではなく、だれでも使いやすいブレないロゴマーク。この3つを指針にして作ってきました。1つめは霧島への愛着、霧島らしさということなんですけど、このシンボルマークは7本のラインで表現されています。ただのストライプではなくて、霧島市の1市6町をシンボライズしました。ストライプに余白があるんですが、第4回戦略会議を表すように、市民の皆さんもこのまちづくりに参加で



きるというこの余白をこのホワイトスペースで表現しています。そしてこれは遊び心として、地域性で合わせたカラー配色もできるようになっています。これは仮でバナナワークスで各地域のカラーを決めて展開しているんですけども、各地域の特色だったり個性を色に落とし込んで、そのまちの LIVE KIRISHIMA という形で使うのも面白いんじゃないかと思って提案させていただきました。LIVE KIRISHIMA のロゴが黒っぽいんですけども黒が好きだからというわけではなく、先ほどの1市6町のカラーを合わせたときの中心点に来る円のブラックを今回 LIVE KIRISHIMA の基本配色にしています。第4回会議を通してそれぞれ委員さんも各地域からつながっていく様子をこのシンボルマークに込めました。次に視覚的にとことんかっこよくというところなんですけど、まちづくりのロゴを作るってなった時にバナナワークスとしてもいろいろ調べたんですけど、地域の地形をモチーフにしたり、特産品をモチーフにしたものが多いんですけど、今回ターゲットが若者層、委員候補ということだったので、今回ここにいる委員の皆さんもかなりクレイジーな方が多いです。そんな人たちのような若者に届くように大胆に見ていただいてわかる通り7本のラインだけで潔く作りました。今回のシンボルマークで個性的な手書きのラインが右から3番目にあるんですが、私がこの戦略会議に参加して、各々がまちづくりを進めていくではなくて、みんながやるでもなく、みんなでやるということで委員の皆さん、職員の皆さん、市民の皆さんの決意を感じたのでそれを右上がりのラインで強い決意を表現させていただきました。持続可能な発信ですね、先ほどもお話ししたんですけど、みなさんにも使っていただきたいと思っています。方針として、各イベントだったり、ウェブだったり広報物でまちづくりの認知を高めるために、共通シンボルをTシャツとか缶バッジとか多角的に展開する予定になっています。霧島市の職員名刺にちょうど入るマークになっています。シンプルな形状なので明日から使っていただければと思います。お店とか事業されている方も広報物にも入れていただける使いやすいものにしました。このロゴを使ってまちづくりに関わっているということをレジ横のサインとかステッカーとかに展開することも霧島のまちづくりを活性化する意味では理想の展開なのかなと思っています。さっき宮之原さんからお話あったんですけどパンフレットを発行する予定なのでそこで LIVE KIRISHIMA が登場する予定なのでみなさん楽しみにしててください。新しいものを作るじゃく、あるものを活用してというところでちょうどそこに貼ってあるポスターもバナナワークスが第1回会議のために勝手に作ったポスターなんですけど養生テープを活用してリメイクしました。テープを使った展開も可能なので、みなさんこのロゴを好きになっていただいて、日常に取り入れていただければと思います。



宮之原) YouTube のほうでもコメントが殺到してましてステッカーほしいというコメントがあります、早速作らないといけません。先ほど LIVE KIRISHIMA ということでコンセプトとロゴをお披露目させていただきました。みなさんどうだったでしょうか。この案で行かせていただければと思います。

先ほどコンセプトを出して将来の霧島を考えていくんですが、実現させていくための成長戦略をパンフレットに載せています。その説明をさせていただきます。先ほど霧島市の強みとも話させていただきましたが霧島の現状を分析しました。SWOT 分析というものなんですが、強み、弱み、機会、脅威を霧島に充てて考えております。やはり霧島の強みというのは都市と自然が共存していること、弱みは遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が低下している。機会、流れはローカル志向である。脅威、光回線順次展開していきませんが文化やアートに触れる機会が少なかったりといった声も上がっています。クリエイティブ産業というところが霧島の脅威。この4



つを分析していただきました。こちらの4つの強み・弱み・機会・脅威を掛け算するとそれぞれ戦略が生まれてくる。機会×強みは積極的戦略、機会×弱みは改善戦略、脅威×強みは差別化戦略、脅威×弱みはイノベーション戦略。先ほどの4つの分析を掛け合わせたらどういう戦略が生まれるかというのを説明させていただければと思います。

一つ目は、機会×強みですね。先ほどのローカル志向っていうところを本市の強み、自然と都市が共存しているというところを最大限に活用して、強みを生かし機会を獲得するための戦略を立てています。先ほどご説明した通り、都市で住みやすさもあり、遊べる自然、アクティビティがある、車で30分も行けば、山も海も川もある。首都圏よりも便利ではないけど、生活には困らないぐらいのまちがある。ローカル暮らしに憧れがある人にとっての霧島ってというのは、自然が近く、休みの日に家族と出かけた、仲間と遊びに行く場所として非常に魅力的である。そのため、都市と自然が共存していて、住みよい場所×遊べる場所

てというのがセットになっていることを最大限に生かす。霧島でしか味わえないローカル暮らしを実践し、そのような暮らしを魅力的に感じる若い人、やはり特に人口減少が著しい20代から30代から選ばれ、憧れが生まれるまちにするというのが、一つ目の戦略です。新しい暮らしが実現できるまちに。一応、こちら4つの戦略とともに、行動指針を示しているんですが、一つ目が、ローカルマインド、地方を面白くしようというような行動指針を立てています。

二つ目です。脅威×弱みの部分ですね。リノベーション戦略になりますが、やはり数多くの遊休不動産があるが活用できる人材が少ない、情報通信業などを希望する学生も多いが、該当する地元企業が少なく、地元就業の機会を失っている。そういったことによって、人材や企業などのリソースが乏しく、求められているニーズに対応できていないという状況です。そのため、遊休不動産を活用したサテライトオフィスやコワーキングスペースなどを手掛けるIT企業を誘致しまして、クリエイティブ人材が集まる拠点を作るなど、世代や属性を超えた出会いから対話が生まれるまちにするというものをリノベーション戦略として挙げてます。クリエイティブ人材が集まるまちにインタラクティブマインドの方針を掲げています。

続いては、機会×弱みになります。中心市街地での空き店舗率の増加、中山間地域での人口減少は空き家増加、不足する公共施設の維持管理費など他市町村と比べても、やはり大きな課題である遊休不動産の利活用については所有者と利用者のマッチングだったりだとか、公共施設に関して民間活力の導入が求められています。一方なんです、空き家再生とか公民連携のノウハウがやはりないと、今のところ行政のところではなかったりするので、そういった遊休不動産を活用できる民間人材の育成、発掘を行い、公民連携のまちづくりをしていかないといけないんじゃないかなと思います。なので、ローカルの価値を再認識して、遊休化した不動産を生かしながら、地域と地域の新しい魅力やコミュニティを創出、発信するなど若い世代の人材の発掘育成を強化し、新たな挑戦が生まれるまちにするというのが3つ目の戦略になります。

最後、4つ目です。脅威×強みということで、アートや音楽があふれるまちにというものを掲げました。自然が豊かで、子どもを遊ばせるスポットが多い、お店も多く、生活していく上で必要なものは手に入る。マンションも増えており、子育て世代も流入している、特に国分、隼人ですね。都市と自然が程よく揃う霧島、子育てしやすい環境であると。一方なんです、みやまコンセールとか縄文の森などの文化振興施設っていうのはあるんですが、暮らしの中で気軽に文化や芸術に触れる機会が少ないというところで。なので、子育て世代も楽しめる音楽やアートなどのイベントを通じて、クリエイティブなコンテンツに触れる機会を創出する。そういうことで、子育てしやすい場所だけでなく、プラスアルファ、子どもたちの感性が豊かに育つまちにするということでエンリッチユアマインドという行動指針を掲げて、4つ目の戦略とさせていただいています。

一応、今説明した4つの戦略なんです、これを成長戦略と掲げまして、行政による来年

度リノベーションスクール等も考えていますが、そういった事業展開するときとか、民間による新たなファンを取り込むプロジェクトを行っていった際には、この4つの戦略を意識して注力していただければと考えております。実際の成長戦略に基づくプロジェクトをこの延べ6回の戦略会議を経てですね、各委員の方々がそれぞれプロジェクトを考えていただきました。なので、そちらの発表を今からしていただきたいなと思います。では、さっそく有村さんの方から時計周りでいきたいと思います。よろしくお願いします。

有村) みなさんこんばんは。隼人町で工務店をやっている有村です。私の取り組むプロジェクトは4つの戦略の中のひとつローカルマインドに注目したのになります。隼人町の小浜っていうエリアがあります。旧2つの村が人口600人くらいで高齢化がかなり進んでいて子どもたちも少ないという中山間地域なんですね。ここにわが社の社



屋を移してそれに伴ってまちづくりをしていく計画を立てています。小浜はすごく海がきれいで海岸もあって夏は遊べるいいところになっています。こんなところに社屋だけでなくシェアオフィスがあったり店舗群ですね。パン屋だったりクラフトビールだったりカフェだったりいろんな店舗に集まってもらってひとつの村を作る予定になっています。最初は自分の会社だけだったんですけど、私も混ぜてほしいということで多くの誘いがあって来月から工事が始まっていく感じです。その前にこまもの屋沖玉っていう方いらっしゃるんですけど、そこにひとつ象徴的な建物を作らせてもらって小屋っていう風にはしてるんですけどもコロナもあるので開放型の建物を立ててやっています。結構なんでもできる場所になっているんですが、ここはコーヒー売ったり。この方も今後小浜に移住したいという方なんですけどお茶やったり新しいことをチャレンジする場所になりつつあるのかなと思います。基本的なコンセプトは住む場所と働く場所と遊ぶ場所が1か所にあるというのをひとつのコンセプトにしているので、あるものを楽しい場所にしていければなと思っています。すでに兆しとして、空き家が100軒以上あるエリアなんですけれどももう移住したりとか新しく店舗を始める方なんかも増えてきているのもし興味がある方がいたらお声かけください。ありがとうございました。

大西) こんにちは、国分で Web サイト制作会社をやっています大西と申します。企画はインタラクティブマインド、クリエイティブ人材が集まるまちにというものになっています。まずこちらなんです、ちょっとデータが古いんですが2017年のソニー生命の調査ですね。中学生に将来どういう職業になりたいかということで1位にプログラマーがきて



います。先ほど宮之原さんの資料でもありましたが、この辺の学生で情報通信業に就きたい方が多いと。ただそういう事業所が少ないのと、そういう人たちが育つ環境が少ないなという風を感じています。僕も5年前に神戸から引っ越してきた移住組なんですが、霧島は自然が多いし住みやすいしとても良いところっていうメリットがある一方、先ほどのようなデメリットもあるかなと思いますので、そこの底上げをしたいと考えております。こちらMANABUN プログラミングスクールというものを本格的にやろうかなと考えております。こちら何回か開催しておりまして、その際は小学生向けに単発でプログラミングの勉強会というものをしました。ただ小学生でしたので難しい文字を書いたり行動を書いてみたいなものではなくてマウスでドロップで自分なりのゲームを作るというような創作意欲を湧かせるものをやりました。結構やり方さえ教えたら積極的にその創造性を発揮したり、こういう段取りでモノが動くんだというのを理解してくれました。その時の写真を載せたかったんですが、みんなの顔を載せるのは悪いので有料素材を買ってまいりました。イメージ的にはこの写真からは小学生がターゲットなんです、小学生だったり中高生というターゲットによってやることが変わるのでそこはまだ模索中です。コロナもありまして、今リモートワークが盛んになっています。僕自身もそうですが、霧島に来てから東京とか関西案件をリモートで行っておりまして、霧島にいながらそういう仕事ができるのはすごくメリットがある職業だと思います。イメージ的にはこんな感じで仕事できたらいいなと思います。まあネットがつながるのかっていう話なんですけれども、5G なればなんとかなるかなと考えております。このように、学習するにしても学習塾みたいな狭いビルに入ってやるよりはキャンプ場だとか、先ほど有村さんが写真で出された小浜の方でもシェアオフィスがあったりしますので、自然豊かな環境で学べるのが売りかなと考えております。そういう風に自分の経験や人脈等のリソースを使って教育にお力添えできればいいなと思います。以上です。

【奥野】こんばんは、私は霧島を拠点にコーヒーの移動販売をしております。Backfield coffeeの奥野と申します。僕はアウトドアが好きで特に登山やキャンプなんですけど、それに魅せられてこちらに移住してきました。その登山の中で飲ませてもらったコーヒーが衝撃的においしく感じてコーヒーにのめりこんでしまって、今ではコーヒー屋になってしまいました。



そんな僕が考えているプロジェクトは冒頭霧島の資源の説明ありましたが圧倒的なスケールの資源が霧島にはあると思います。その自然を最大限に活用したコーヒーショップ、コーヒーとアウトドアとプラスアルファで防災の要素を含めたコーヒーショップを展開できればなと思います。市街地から数十分車を走らせれば海だったり山川といった魅力的な自然の中に飛び込むことができます。これは高千穂の峰から見た霧島市外なんですけれども、うっすらと先の方には錦江湾が見えていて、天気がいい日にはこの先に開聞岳が見えるような、魅力的な自然があります。ただ近くに自然があるだけではなくて景色のいい魅力的な自然があるのが霧島の魅力だと思います。自然を最大限楽しむのは何かって考えたときに、アウトドアギアを用いたアウトドアアクティビティーなんじゃないかなと。そのアウトドア用品があれば、自然の中でコーヒーを淹れることもできますし、写真はカップヌードルなんですけど、山で食べるカップヌードルが美味しすぎて山には欠かせない一品なんですけど、霧島の自然と人、人と人をつなぐコンテンツになればなと考えてます。アウトドアを始めたいっていう方が移動販売をやっている中で多いんですけど取っ掛かりが何をそろえたらいいかわからないと良く聞きます。そのアウトドア用品の紹介だったりコーヒーを介してアウトドアの素晴らしさを伝えていけたらいいなと思います。外でご飯が作れたりするのは、最近多発している自然災害だったりとか停電とかイレギュラーな状況でも温かい食事ができたり。生きていくうえで必要なスキルも身につくんじゃないかなと思ひましてコーヒーとアウトドアと防災を絡めたコーヒーショップを展開して自然の素晴らしさを伝えるとともに、人々と圧倒的なスケールの霧島をつなげられるような場所を作っていければいいなと思います。以上です。

白水) こんにちは、白水と申します。私は横川で横川 Kito という名前で築 90 年の古民家を改修しながら 4 月開業でカフェとゲストハウスとまちづくりの事業を横川を中心にエリアの活性化を事業としてやっという一般社団法人を作っ活動しています。元々は鹿児島市の出身で東京に出まして、また鹿児島市に帰ってきて、夫の仕事の都合で縁もゆかり



もなかった霧島市に 2017 年に移住してきました。最初のころは霧島の良さを全然知らなくてなかなか溶け込めなかったんですけど、仕事で霧島市の企画政策課が主催されていた霧島スイッチというものに 1 年目は参加者として 2 年目は運営側に回って、仕事として関わらせてもらって霧島のいい所いっぱい教えてもらってどんどんハマった形です。私が横川町というところに子ども 3 人連れて家族 5 人で引っ越して暮らしているんですけど、なんでそんなに引っ越すほどハマったのかと言いますと霧島スイッチの担当をしている中で、横川駅の保存会の人たちが愛情込めて仕事じゃないのに、なんでこんなに自分の休日の時間を返上するんだらうというくらい愛情込めて手をかけてされていたのが心を打たれて、この人たちの仲間になりたい、この人たちみたいな大人になりたいということで横川というまちに興味を持ちました。これが N ゲージという鉄道模型を線路走らせるというイベントを発案されて、嘉例川と横川駅って同じ年に建てられていて、実は横川駅を建てた大工さんがまるっとそのまま嘉例川駅を建てに行っているんで実は数か月早いんですけども鹿児島県最古の木造駅舎で N ゲージを走らせるっていう鉄道好きにはたまらないイベントをやられているときの写真です。あと夏は鬼灯が飾られて写真映えもするし、立っていても趣があって素敵な雰囲気になったりします。愛情をかけてされているのがものすごく好きで、このまちのこういう魅力をどうやったら知ってもらえるかなというので私の活動は始まっています。古民家を借りてお店をこのまちでやろうと腹くくって何百万と借金しながらやっています。私が一緒に仕事している仲間の研修を横川でやったときの写真なんですけどこんな感じで、駅の横の芝生広場を使って合宿をしたり、交流をしています。まちなかの地元の方々から駅の横の芝生広場にテントを張れるようにしてキャンプできるようにしたらいいんじゃないかという話が上がっていたりして何かそういう使い方や楽しみ方、違う視点でやってみようというのを私も同じ気持ちだし、まちの人も同じ気持ちで一生懸命やっているとこです。そういう声がまちからあがってくることはすごく素敵なことだと思います。山ヶ野っていうさつま町との境目のあたりなんですけど、ほぼ 80 代以上、60 世帯くらいしかなかったと思うんですけど、そんな集落ですが里山の風景が残っていて、当時の金山があったところなんですけど当時の生活が分かるような遺跡も残っていてこういうところを発掘しながら霧島の新しい楽しみ方をもっと PR していきたいなと思っています。

徳永) みなさんこんにちは。本業は建築とお祭りをしています。溝辺に住んでおります。私は溝辺生まれ溝辺育ちです。私のやりたいプロジェクトは1市6町一斉に行う合同イベントをやりたいなと思っています。2015年から霧島で音楽のイベントLOVE&BASICという大人から子どもまで最高の日曜日を過ごそうという音楽と食とものづくりを通してやっているんですけれど、



第1回目は牧園のみやまコンセールを利用させていただいたんですけれども、イベントをして何が変わるかという僕は溝辺に住んでいたんですけれども、牧園のみやまコンセールでやることで近隣の方と繋がれたりだとかどうい方が住んでいるのかなとかイベント統一だけではなくて、イベントを通して地域のことを知ることができてみやまコンセールの周りに野々湯温泉とかそれまで知らなかったんですけど、素晴らしい温泉があって、近くに国民休養地があったり、知らなかったことを知れるのがイベントの素晴らしさかなと思います。そこから場所を移して地元の溝辺に戻って竹山ダムの下にある竹山集落という9世帯しかない限界集落があるんですが、その森で子どもと遊んでいるうちに森の在り方だとか、公共的なものではなくて霧島の素晴らしさを伝えられるんじゃないかなという思いで3年前から竹山のこもればの森という名前でイベントを行っております。今日集まっている方を含めて、いろんな方が霧島にいると思うんですが、よりつながるために1市6町で合同に行うイベントができたらいいなと思っていて今日は参加させていただいてみなさんに一緒にやってもらえないかなという願いに来ました。まだなにをするかは決めていないんですがこれに向かってやろうとすることで横川とか福山とかあんまり行く機会がないんですけれども霧島のすごいところを改めて知るきっかけになればいいなと思ってこういうイベントができればいいなと思っています。地域住民と一緒にやることで普段公共のところでは夜遅くまでできないと思うんですけど人と人のつながりがあって限界集落の人と仲良くなることで夜遅くまでやらせてもらえているので人と人のつながりがあればどういことでもやっていけるとしています。最後に9年くらい前の写真なんですけど、委員にいる増田君と日永田君とこのイベントをしようと思ったのが嫁さんのおなかに子どもができて、その子どもたちに何を残していくかと考えたときに人のつながりとして大人たちが遊んでいる姿を次の世代に見せていければ地元が楽しくなっていくんじゃないかという思いでこのイベントを始めました。こうやって続けられるように、ぜひみんなで第一歩となる旧1市6町のイベントをやっていきましょう。お願いします。

日永田) こんにちは。隼人に住んでいる日永田と申します。私のプロジェクトは cominka. です。Co ってみんなのってという意味があると思うんですけど、そのまま。古民家を使ってみんなで楽しめるような場所。公と民で立ち上がったプロジェクトってという意味も付け加えてみました。私が今住んでいる家も築43年の古民家を改装してる家に住んでいるんですけど、今



並べている写真が改装中の写真です。どこにでもあるような古い家だったんですけど、中の壁とか4部屋くらいあったところを壁ぶち抜いてリビング1つと寝室1つってような間取りになっています。古い家って壊していくと大工さんがこの木いいよとか、このガラスもう手に入らないよとかでてるんですね。そういうガラスとか残して扉の所に飾りとしてつけたり、木はカウンターテーブルにしたりとか。それで今も過ごしやすい家ができます。広い庭もあるので右上の写真が、ちっちゃな木があるんですけどそれも成長していい感じになっています。右の木ですね、キンモクセイなんですけど大きくなっています。妻のお父さんがギターを弾いたりとか、外でくつろいだり。左の方の写真はテラスのところで遊んだりできてます。こういうふうな古民家を改装することで、子どもも大人も楽しめる場所ができるんだっていうのを身をもって感じてみんなにも体験してもらいたいのこういうプロジェクトを提案しています。見づらいんですけど野菜を育てているベジベッドっていうプランターがあるので娘が収穫している写真ですね。実際古民家を改修するとなると、自宅なので結構お金かかってしまっているんですけど、第2. 5回戦略会議で沼津の方がいらっしゃって、ちょっとした民泊程度だったらお金をかけずにある程度成り立つと教えてもらったので、あまりお金をかけずに眠っている財産を利用してこういうスペースができたらいいなと思います。子どもも大人もワクワクできる場所。こういうのが霧島中にできてひとつ簡単な事例ができればやってみようっていう人も出てくるかなと思っていて、ある程度統一感を出してネットとかで繋いだらおもしろいワクワクするものができるんじゃないかなと思います。ちなみに cominka. 屋根になっています。ロゴも勝手に使ってますがこの形統一したら霧島市面白いことやってるなって思われると思います。以上です。

増田) こんばんは。霧島の旧霧島町で農家をやっています、増田と申します。僕は霧島に移住したというか、今年の5月で12年目になります。霧島に住みつかせてもらっているという表現の方が正しいかもしれないです。プロジェクトは農家やっているのですが、ずっと思っていたのが農業というのは山と海が必要です。海の水蒸気が雲になって山に雨を降らせて田んぼ



だったり畑の水としてくるっていうのがあります。その中で僕のマルマメン工房という場所に行く途中なんですけど10年後20年後スギ林が増えるんですけど、こういう景観を守りたいというのがあって、高千穂が見える景色ですね。僕は麦と大豆を作っているんですけど農業のいいところは景色を作れるところだと思っていて、どんどん面積をひろげつつやらせてもらっています。それだけでは収入的に安定できないので母屋を改造して、加工場をつくったりとか自分のところの販売所、カフェも併設させようかなと思っています。そこで大豆を使った味噌や醤油の製造と、料理体験をする場所。農作業で体感する場所になればいいなと思ってプロジェクトを進めています。ここが僕の家のある神様なんですけど、日本全国山の神様が祀られています。田んぼの時期になると山の神様が桜の木に降りて田の神さあになると言われているんですけども毎年4月の29日くらいにお祭りをしようと思っていて、祭りの起源が五穀豊穡を祈るのが最初の起源なので、そういったことも伝えつつ来た人に感じてほしいっていう場所を作っていきたいなと思っています。それをやりながら子どもに何か残せたらいいなというのが僕のプロジェクトです。以上です。

松本) 松本と申します。最後ということで緊張しているんですけど頑張ります。私は PBOOKMARK という会社をやっていまして、ローカルをもっと面白くというところをスローガンとしてやっております。今 EC という通販のサポートとかウェブマーケティングのお手伝いとか、カフェとかコワーキングオフィスの運営をしています。いろいろやりたくていろんな



ことやってしまうんですけど、話聞いててもアウトドアやりたいなとか民泊、音楽のイベントやりたいなとか古民家いじりたいなとか考えちゃっているんですけど、やっぱり本業に戻ろうということで私の考えているプロジェクトが、まちの中にコワーキング施設を作りたいなと思っています。今やっているコワーキング施設と何が違うかという、クリエイターが働きやすい、成長しやすい仕組みとかソフトウェアを組み込んだコワーキング施設を運営できたらなと思っています。コロナ禍の中でテレワークだとかリモートワークが増えてきて、ZOOM なんかで会議をすると思うんですけど、やはり自宅だとお子さんがいらっしやったりとか、自分のプライベート空間を見せたくないとかそういう人たちにとってコワーキング施設はまだまだ需要があるし、どんどん広がっていかないといけない。ただビジネスとして考えたときにコワーキング施設だけで運営していくのはなかなか厳しい。そこを踏まえた上で EC とカフェという武器があるので、そこで売り上げを補いながら進めていきたいです。クリエイターになぜ特化するのかというやはり地方にとってクリエイティブとか IT が浸透していないし、ビジネスとしてそのツールを使いこなす企業が少ないんですよ。存分に活用されている方もいらっしやると思うんですけども。そこらへんを駆使してビジネスを活用する人材が少ないのでそこを育成できる施設を作っていきたいなと、そうするとビジネスがもっと広がっていくであろうし、ローカルのビジネスがより加速するんじゃないかというところでコワーキング施設を考えています。カフェも併設して人を呼びながらもっとゆったり自分らしい働き方を見つけられる空間を作っていきたいなと思っていますんですけど、ソフトウェアの一つとして、バーで飲みながら仕事の話ができたり得意分野のことをいろんな人に相談できたりとか、コミュニケーションがとれる場にしていきたいなと思います。黙々と仕事をする場ではなくて、コミュニティとして成り立つ場にしていきたいなと思います。よろしくお願ひします。

宮之原) ありがとうございます。8名のプロジェクトですね、それぞれガイドラインにも委員のプロジェクトを載せていきたいと思えます。どの地区でやるのか、またガイドラインは大体5年間くらいで考えていますが、5年間のうちのどの時期にプロジェクトが実現できるのかということも載せていきます。もう一つは、先ほどの4つの戦略を説明しましたが、プロジェクトが4つの戦略のどの部分に注力しているのかというのを示しています。一人ひとりが行うのも大きな一歩ですが、8人全員がやっていくと先ほどの将来像につながっていく。どのプロジェクトもそれぞれの戦略に基づいて度合いも違うものをみなさんに作っていただきました。最後になりますが、各役割と推進体制を民間の方が事業を始めるにあたって行政もサポートしていかなければいけないところ、行政だけでなく金融機関も組みながらやっていかないといけないのでこの実現に必要な登場人物を挙げさせてもらっています。ビジネスオーナーは委員の方々、今後生まれてくるプロジェクトを生み出す次世代の若者です。不動産オーナーとも協力も必要になってきますし、道路活用の社会実験等も行っていますがリノベーションまちづくり実行協議会、商工会議所、商工会との連携も必要になってきます。行政は人材育成の活動を今後も続けていきたいですし、ビジネス動かしときに資金必要になってきますので、資金繰りも行政と金融機関が連携して資金調達がスムーズできるようにしていかないといけない。やはりそれぞれのプロジェクトでもですが、空き家とか遊休不動産を活用する場面が出てくると思えます。そういったときに霧島市はどのような役割を負うのかですね、オーナーに物件の提供を依頼したり、金融機関と連携して融資を行うとか、ビジネスオーナーが直接不動産に掛け合うところもあると思うんですけど、箱が大きな建物とかは、今から出来上がっていく家守会社とかまちづくり会社が入って展開していくことも考えられると思います。遊休不動産だけでなく公共空間を活用してビジネスしたい人たちにまちづくり実行協議会が間に入るスキームを作っていくことも考えています。スケジュールは5年間のガイドラインと申し上げましたが、行政だけでも民間だけでもなく、それぞれが一緒に動いていく必要があるので、民間と民間が進める部分、民間と行政が進める部分ということで、役割分担して進めていけたらいいなと思えます。今後霧島市でもリノベーションスクールを計画していますが、そちらに民間の方が出ていただいたり、やはり仲間づくりが重要になってきますので気軽にこういう会に参加できる機会も創出できればいいなと思っています。私の方からガイドラインの案ということでご報告させていただきたいと思えます。ありがとうございました。



須部) 宮之原さん、委員の皆さんありがとうございました。42名 YouTube ご覧になっています。何名かコメントをご紹介したいと思います。

- ・何処で何をやりたいかだけでなく、誰とやりたいかも移住や活動の大きな動機になりますよね。人も社会資本。
- ・アクターの多様性も地域の持続に不可欠なテーマですね。
- ・このロゴのステッカー店舗に欲しいですね。
- ・ステッカー欲しい！
- ・東京生まれ横浜から移住ですが、都会にないものはすべてあると思っています。
- ・ピンチはチャンス、じゃないですが既に想定できるネガティブな要素は先手を打てる力の入れ所でもあるので、ポジティブな要素に変えていきたいですね。

須部) 後半は第2部トークセッションをしていきたいと思っています。いくつか問いが出されるので、それを委員の皆さんに振っていくので、委員の皆さんはどう思ったかをトークしていければと思います。



1つ目の問いなんですが、戦略会議に参加して気付いたこと、半年前に参加していただいたんですがその半年間で気づいたこととか生まれたもの、自分に変化があったとかお聞きしたいと思います。まず、もともと霧島に住んでいないけど霧島市に移住してお店を出されるということで、戦略会議に参加して気付いたこと変化があればお聞かせいただきたいと思っています。白水さんお願いします。

白水) 私さっき横川に引っ越したとお話したんですが、昨年の12月までは国分に住んでいて2か月前に横川に引っ越しています。国分より地方の方が面白いと思って引っ越したんですけど、戦略会議に参加してこの国分隼人だからこそできることがあるな強く感じました。自分に変化の兆しが生まれたものは、自分自身がDIYを中心にしながら古民家再生を10か月間やっているのもあって、霧島は空き家がどんどん増えていくので、国分隼人を拠点にできるDIYチームみたいな、工具をシェアしたり、ここの空き家再生やるぞってときにみんなで楽しくやるみたいなチームをこの中心街を拠点に霧島中から集められたら面白いし、DIYの空き家再生以外の効果もまちづくり的な効果も生まれるので面白いなと思います。自分の中に戦略会議で生まれたものとしてお話しました。

須部) ちなみに白水さんこの半年楽しかったとコメントいただいたんですが、どんなところが楽しかったですか。可能性を感じたところとか。

白水) 今グラレコしてくれている彼女も、戦略会議の1回目でグラレコというものを知って、ググリながら家に帰って夜中に描いてっていうのが9月末だったんですけど、今では仕事で受けるまでになっているんですよ。昨日も大隅で頑張ってきているんですけど、そんな感じで自分たちだけでなくそこから派生して生活がいい方向に変わっていった人たちが他にもいて、ワクワク感みたいなものを感じました。



須部) ありがとうございます。では違う方に。日永田さんをお願いします。10年以上霧島にいらっしゃると思うんですが、会社がこちらで家も作られていると思うんですけどペチャチャナイトとか人が集まる場を作られていますか改めて会議参加してどうですか。

日永田) 委員で集まっている皆さんはなんとなく知っていて、クレイジーな方だとわかっていたんですけど。一般の方も参加しての戦略会議とかもあってその時思っていた以上に人が集まって盛り上がっていたので霧島に面白い人がいっぱいいるし、これからワクワクすることをやりたいなっていう人が多いということに改めて気づきました。10年くらいって言うんですけど、10年前はこういうことが見えてきてなかった。宮之原君が前の会議で、霧島市のイベントをきっかけに人が見えるようになってきたというのがあって、こういう新しい取り組みから新しい人が見えてきて、その人たち同士がつながって新しいのが生

まれているのがすごくよく分かって面白いなと思います。

須部) 霧島の人たちの特徴的だなと思ったのが、最後のコンセプトを決めるときに3つのグループに分かれたんですがその中にクレイジーというものがあまして、ほぼそれで決まりかけていたんですがそれを選ぶのもすごいなって。ということでクレイジーな人が集まっているんですよね。ユニークな人たちが集まっているんだなと思います。次の問いに行きますけれども、霧島の課題ってなんだろということで宮之原さんから発表もあったんですが自分が住み暮らしてみても改めてこういうところが課題だというものがあると思うんですが、霧島の課題+それを活かせば強みになるみたいなものがあると思うんですね。それを感じている人が有村さんだと思ってお聞きしたいと思います。100年以上続いている会社を引き継いで会社と住んでいる場所と長い間霧島にいらっしゃると思うんですが、そういうものも含めて課題はどこにあると考えていらっしゃいますか。

有村) そうですね。霧島の課題例えば新しいこととか、これをやろうってなったときのサポート体制とかどうやったらいいのかわかんないというのが一つあるのかなと思っていて、そういった意味でもこのメンバーが大事なんですね。みんないろんな旗を掲げているので、なにかやりたいことがあればその人のところに行けばいいやあっていう。今までそういう旗を掲げている人がいなかった。そういうのはすごくこのメンバーでやれてよかったなと思います。

須部) 小浜に本社移転してコミットするじゃないか、そこらへんの見えている世界ってどんな感じなんですか。霧島に可能性を感じてその場所に可能性を感じてらっしゃると思うんですけど。普通はあその場所に出しづらいと思うんですけど、そこにあえて出すっていう未来観は。

有村) いろんな人になんできてよく聞かれるんですけど、いろんな理由がある中で最終的にはその場所が好きなんですね。移住もするんですけど、働くこと、住むこと、自分たちが楽しいと思うことが結果的に人を呼び込むことになっているし、結果的にいろんな協力者が増えているので、自分が楽しく暮らせる場所になるっていう確信があるのでそこが大きい。

須部) 進捗としてはどうですか。

有村) 思ったよりいろんな方が携わってくれています。この間も海洋生物の研究されている方もいらっしゃるみたいで。すごく楽しみです。

須部) 同じ問いを LOVE&BASIC ということで山の中でイベントやったり、都市部というより

自然を活用して場を作られている徳永さんにお聞きします。課題というかもったいないなと思うことをお願いします。

徳永) 大自然があって、中心地には工業地帯とか会社もあるんですけど、自然と社会というか。職場の距離が結構離れているイメージがあります。溝辺に関して雇用が少なくて国分に行って従事している方も多いので地方でも雇用が生まれればもっと自然とか観光の近さがでてくるんじゃないかな。あと IT とかクリエイティブとかそういうのも使っていけばより近くなっていくんじゃないかというのがあるので、そこがもっとつながっていけば強みになるんじゃないかなと思います。

須部) いわゆるワーケーションといわれるようなところも通じてきて、人の暮らし方とかにも導かれて中の人も楽しんだりという感じですかね。まさに先ほどの大西さんの Wi-Fi つながってるかわからないけど外で仕事できるみたいなあんな感じですかね。続いての問いは霧島の役割分担について、民間行政その他の団体の役割を持っていきましょうということだったんですけど。これは地域の課題の一つかもしれない。もっとこうだったらいいのというので民間行政、政治とかもありますけどそういった視点で農業の観点で増田さんに。なぜ増田さんかという、農業ってわかるけど表舞台に出にくいとか発信しにくいところじゃないですか。だからこそ伝えたいことがあるんじゃないかなと思いました。どうでしょう。

増田) 農地の問題でいうと、僕が最近借りた方から貸すと盗られるみたいなそういう問題もあるんですけど。他に教育機関が案外遅れているというか給食問題にしても臨機応変に対応してなかったり。公民館とか自治会は加工施設もあるんですけど、公民館と同じになっていて管轄が教育委員会になっていてそういった意味で使いにくいとか割となにかを起こそうとするときにお試しでなにかできなかつたり、そういう縛りがあって 20 年前の決まりが残ってたりとか地方に行けば行くほどあるので、そういった意味ですごく柔軟な対応をしてくれたらなと思います。特に農業なんかは U ターンとか移住してやってくれる方が多いのでそういう方に対してもっと柔軟な対応をしてもらおうと地域とも溶け込みやすいでしょうし、住みやすくなると思うんです。

須部) なかなか声を発しにくいポジションだと思います。一次産業だと農業関係とかだと違う課だと受け付けてもらえません、みたいなことがあったり結構大変だと思うんですね。そこら辺をうまく民間と行政となって問題解決、よりよい暮らしをつくるためにタッグ組むといいですね。はい、同じ問いを松本さんをお願いします。切り口としてもともと鹿児島市にお住まいでしたけれども、そこから霧島市の会社を務められて移住されて今独立されて割と IT とか外とあんまり接しないところの職種だと思うんですけど、そこからワークキ

ングでまちづくりもされている。割と開けていると思うんですけど中にいたからこそ、外に出て霧島の役割分担がもっとこうだったりとか、見えてる視点がありますか。

松本) 今言われていたみたいに、マンションの一室で独立したみたいなのところあるんですよね。仲間3人くらいでカチカチして、自分たちの仕事がいっぱいいっぱいになったのでコワーキングみたいなのところ作ったのがきっかけなんですけど。コワーキング作って気づいたことは、なんでこんなに民間と行政がつながってないんだろうと思いました。知らない世界だったので意思疎通が図れているのかなと思っていました。もちろん図れているところもあると思うんですけど、もっとできているものだと思っていました。でもチャンスだなと思いました。私がそこをつなげたらもっと面白いことができると思って、宮之原さんともお話をさせていただきながら今回の内容もいろいろお手伝いさせてもらっているところもあります。だからこそ民間と行政、教育機関、商工会とかいろいろあると思うので、いろんな情報を共有できるようなみんなと一緒にやろうよっていえる環境が作れたらいいと思います。

須部) そういった意味でいうとコワーキングとか人が集まる場所で、行政と民間が仕事のついでという感じではなくて、ふらっと会話をして困っているんだけど、行政側で今度きて話してみましようよとかフランクな関係づくりの場が必要な感じですよ。そういった場所をつくっていただくと。続いて最後の問いになりますけど、リノベーションまちづくりから霧島における未来の可能性とか、どんなことに期待している、どんなことしたいとかいう形ですけど皆さん発表はしていただきましたけども奥野さんにお話聞きたいと思います。フリーで転々と出没しているというか、行けるからこそ未来の霧島の可能性を感じると思うんですけど、それについてどうでしょうか。

奥野) 霧島のみならずなんですけど、昼間出店してても散歩したくなるまちに霧島が発展していけばいいなと思っていて。昨日リットアップというイベントさせてもらったんですけど、昼間のまちなみって寂しくて昼間やってるお店あんまりなくてイベントやってもイベントだけしか行くところがないというか、魅力的な店がもっと点々としていけばまちが楽しくなるんじゃないかなと思います。僕も移動販売という職種柄、まちの中にポップアップで楽しめるコンテンツになればなと思ってさせてもらっています。リノベーションまちづくりを皮切りにいろんな楽しいお店ができてきたり、まちがにぎわっていけばいいなと期待しています。

須部) 奥野さんみたいな人が増えれば、霧島は自然も多いし活用できますよね。景色にもなるし、後輩を育てていく仕組みを行政と一緒にしてくれるかもしれませんね。最後大西さんにお聞きしたいと思います。先ほどのお話からもITのお仕事されてますけど、お子様のプログラミング教育とかについて、今までひとりやってきていたと思うんですけどリノベ

ションまちづくりは多様性とか人のつながりから未来の可能性をつなぎあわせるということがあると思うんですが、そういうところも含めてどこに期待しているとか、どんなことがやれそうだとかコメントいただければと思います。

大西) まず、どういうことがやれそうかということなんですけれども、今ご紹介いただいたように一人でやってきたのでこうやって仲間と一緒に取り組めるといのがありがたいなと思います。インディアンの言葉でしたかね、早く行きたければ一人で行け、遠くに行きたければみんなで行けというのがあって。その通りだなと思っていてその点についてリノベーションで良い経験をさせていただいて、これからもご協力いただきたいなと思っています。霧島への期待はずっとクリエイティブな人たちが増えるまちにしたいなと思っていて、それがライブに集約されていると思うんですけど新しい理想のライフスタイルが送られて、クリエイティブな人が集まってチャレンジもしやすくアートや音楽が溢れるまち、とんでもないと思うんですよ。そりゃ地価もあがるだろうと。どこまでできるかというのはほんとに僕たちだけでなく行政、一般の方もだと思わんですがなるべく前のめりな方が増えてまちじゃなくて自分からもどんどん提案するみたいな人たちが増えて刺激しあえるようなまちになれば面白いなと思います。

須部) インディアンの言葉ね、やっぱりみんなで作るからこそ見える景色があるのかもしれない。一人で行けば早いけど一人でしかできない範囲でしかできないということですね。ありがとうございます。ということで、みなさんから質問をいただきたいと思うんですが、一人ふたりとかになってしまいます。会場の方から委員の皆さんに質問したい方いらっしゃいますか。

野崎) 行政の方からこれをやってみてどうだったか聞いてみたいです。

池田課長) こんばんは、商工振興課の池田です。半年間リノベーション戦略会議ということで民間の方、委員の方とさせていただいたんですが、行政として民間の皆さんから刺激を受けることが多かったです。楽しくまちづくりをやりたいということで半年間楽しく会議もさせていただきました。こんなに面白くていいんだろうかと思うことも行政としてはあるんですが、舞台を作るというか、行政的には最初の民間主導でということで考えていましてやはり、行政としては舞台づくりが大事だなと考えています。その上で民間の方に思いり動いていただいてサポートできればと思っています。ちょっと話変わるんですけど、昨日多目的ホールで高校生のための合同企業説明会がありました。商工振興課の管轄でやったんですが33社の企業が来ていただいて、高校生が120名ほどきてもらいました。コロナの中でできたことがうれしく思っているんですが、企業の説明を聞いている子どもたちを見ると目がキラキラしていてこんな企業があるんだとか、初めて知ったとか思っているようでし

た。高校生たちを見ていると次の世代の委員にぜひなってほしい。本当なら説明会を見ながらこの戦略会議を同じブースでできたらよかったのになと思うところでした。120人が聞いたらすごかっただろうなと思います。そういう次の世代に残していくとか残していくとか育っていくような霧島というまちが作れたらと思っています。行政としてはその舞台づくりをして民間の方々に動いていただいて、そこにサポートできればと行政では思っていますので、よろしくお願いします。感想としては以上です。

野崎) ありがとうございます。僕も何回か参加させてもらったんですけど、この会って基本土日なんですよ。それなのにオブザーバーで行政の方が5人くらいのタスクフォースを組んで部をまたいでいらして前のめりでしたもんね。それが感動でした。

須部) 第3回戦略会議の時も関わっていただいて民間がそうしたいならということで行政としてこうできるんじゃないかとか話をさせていただいて、いい場でしたよね。

野崎) 感動しました。霧島市役所すごいなと思って。

須部) 結構行政と民間ってフラットな立場で霧島市はやりやすいと思うので、今日は戦略会議が終わりですけど、これから実践という形に、戦略を立てたものを行っていく形になりますのでさっき市長が言われていましたけど、今日がスタートなのでよろしくお願いします。委員の皆さんから一言ずつ、新しく参加する仲間へということで池田さんからもありましたけど高校生とか若い人に参加してもらいたいという思いも込めてメッセージをいただきたいと思います。

有村) 戦略会議って聞くと難しそうなイメージがあるんですけど、楽しいものなので一緒に楽しくやればいいなと思います。

大西) 仕事をするなり勉強をするなり、選択肢が多い時代です。その中で地元が好きで新しいことをしたいとか思う方はそれを提案とか実現しやすい環境ですのでぜひ参加してもらえたらなと思います。

奥野) 僕も思い付きで実現できるかわからないことを言うんですけども、言ったら言っただけみんな反応してくれますし、楽しいメンバーも集まっているので、夢とかやりたいことがあればみんなで声出していけばそれがどんどん具現化していくんじゃないかと思うところ。みんなで盛り上げていければと思います。

白水) 私は、ぜひ女性の人たちともこれからできたらいいなと思っています。横川牧園あた

須部) クロージングアウト、総括をさせていただいて締めをしていきます。地域とつながり好きな暮らしを自分たちで作る。私たちにできることは必ず地域にあるということでお話をさせていただきます。まず、委員の皆さん、霧島市役所の皆さん、バナナも野崎さんも半年間ありがとうございました。大変でしたね。大変だったからこそ4回の予定が7回あったからこそ考え抜かれた戦略ができたと思います。委員の皆さんもお付き合いいただきありがとうございます。一年前にこの状況を誰が予想できたかということで、コロナという人と人を分断させる感染症ができて、この戦略会議もできるかという話をしていたところでした。戦略会議をオフラインで会って感染症対策をしつつ人の温度を感じたことは今後意味が出てくるんじゃないかと思います。これまでのやり方が通用しないという前例のない時代になってきています。人口減少、少子高齢化社会、税制も減っていく社会の中で、作る時代から使う時代になっていきます。そこで空き空間だらけの全国どこも同じ課題ですけど、空間だらけのまちを活かしていく、逆にポテンシャルに置き換えていく。これだけユニークな人たちがいますから住み暮らす人たちがこれだけ集まっていただいて、YouTubeでも40名以上の方に観ていただいているということは、興味がある人がこの霧島という地域にいらっしゃるということですね。100人近くの方が動けば、知恵を出し合えばポツとでのアイデアもできるんじゃないかというような期待値を高めていくことも大事かと思えます。今回4つの戦略ということで、まちの日常を豊かにするために戦略はこの半年間でできあがったので、ここからなにをしていくか誰とやっていくか考えていくワクワクする時間になっていきます。若い人、年配の方いろんな人を巻き込んでいく地ならしができたということです。ここからみなさんで作っていくということです。これから民間と行政が一体となり進んでいくためには役割分担をしてまちを動かしていくんですが、一緒になって行政だから民間だからではなくやっていくために役割分担どうしていこうかと、会話をしていながら挑戦して行っていただきたいと思えます。一貫して委員から出てきた言葉が未来のまちを楽しくする子どもを増やしたいという言葉がありました。私たち大人が背中を見せないとあれでいいのかと思ってしまいます。カッコいい大人たちがまちを元気にする楽しくするために頑張っている背中には必ず若い人たち、子どもたちに伝わると思えます。私たちがちょっとでもいいから動かしてみようという意識をもってつながって、自分一人ではできないけどアイデアがあればいいと思えます。みんなで一緒になってまちをつくっていただければいいなと思えます。今日から霧島ではじまるリノベーションまちづくり、こんな暮らしがしたい、いつかチャレンジしたい。そのために私たちができることはなんだろうか、どんなサポートが必要だろうかということを問い続けることが必要だと思えます。鹿児島はすでに鹿屋、鹿児島市、出水、出水は1月に行いましたけど、リノベーションスクールということで遊休不動産を動かすスクールが開催されました。50名以上の仲間が鹿児島にいますので、連携が取れます。鹿児島、霧島を拠点に鹿児島が一体となれると思うので今日がスタートなので一緒に新しい霧島をつくっていきましょう。では最後田代さん、描いてもらったの感想を一言お願いします。

田代) 描いてみてみなさんおもしろいことをしているので、まとめるのが大変でした。全部の言葉が熱いのでどれを拾ったらいいのか、でもやっぱりクレイジーが多いなと思って私もそこに飛び込もうとしているのでよろしくお願いします。

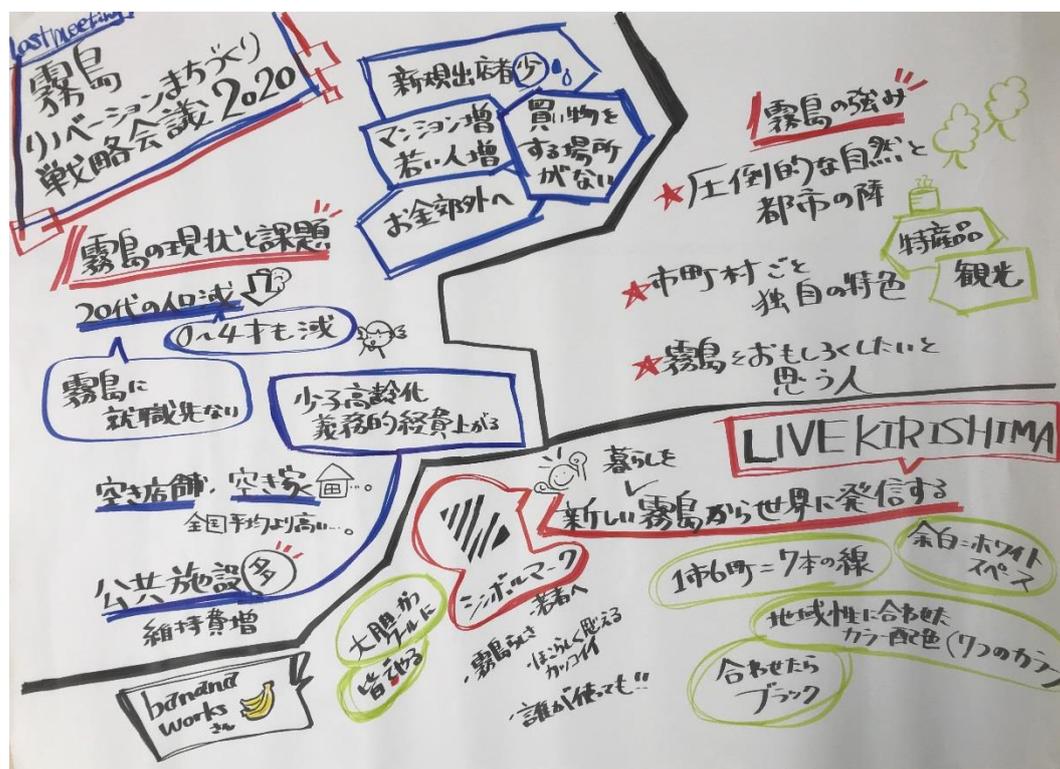


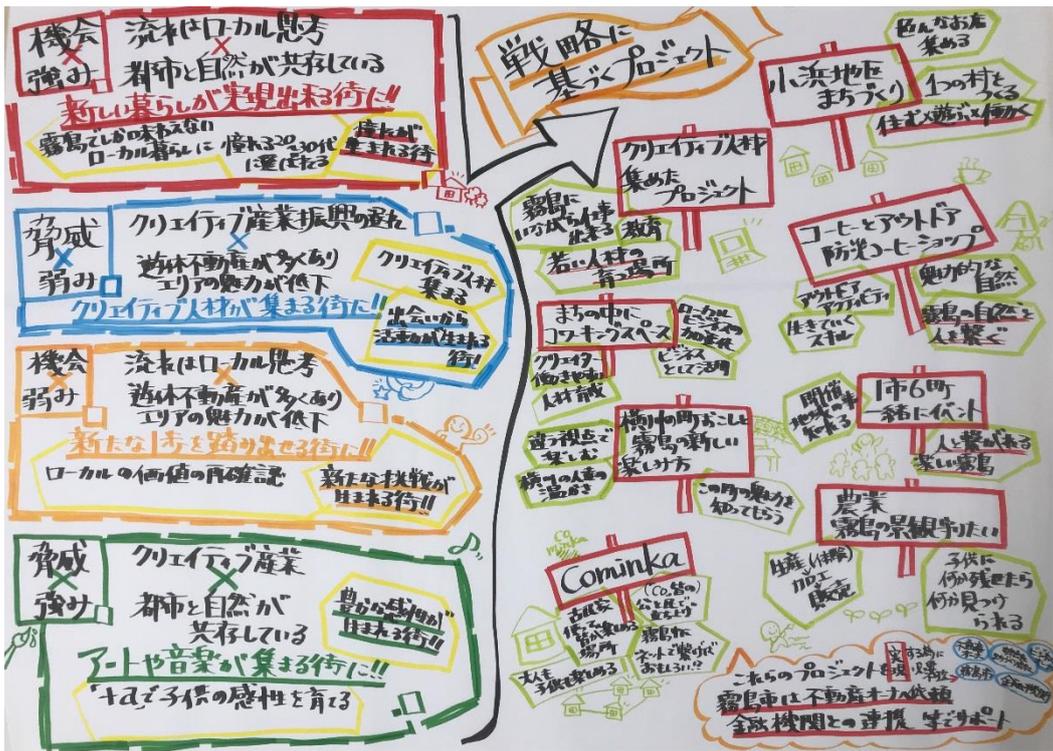
須部) 最後締めのおいさつを山口副市長からいただきたいと思います。

山口副市長) 皆さん本日はありがとうございました。私は今副市長なんですけれども、その前は職員でそのころ移住を担当していました。首都圏とか近畿圏に行って移住のセミナーをするんですけど、まず霧島の良さをいろいろ言って他の市町村もいっぱいいて、そのあと各ブースで相談に応じるんですけど、霧島だけたくさんいるんですね。なぜこんなに多いんだろうと思って一回聞いてみたんです。その方は1回移住されたらしいんですけど、その移住した先はどこまで行っても田舎だったと。霧島はまちの横に田舎があって、田舎の横にまちがあるということを言われました。今ポスターにも、一緒に作ろう霧島それからワクワクさせよう、人がいるということが霧島市の魅力だと思います。まちにも田舎にも人がいますが、先ほど若い人が外に出ていくという話がありました。私はいつも思っているんですけど子どもたちが残るためには霧島市が好きになる、誇りになるまちになることだと思っています。私の勝手な考えなんですけど2つ考えています。1つは霧島市の歴史を知って好きになること、もう一つは霧島市が元気だということを認識することだと思っています。まず歴史を好きになるということなんですけど、10年くらい前に嘉例川地区で子どもたちと歴史を散歩するウォーキングに参加しました。その時に子どもたちが目をキラキラさせてこんなすごいところなんだと、何も無い田舎なんですけれども歴史を知ることですごいところだと言っていたんですけど先週山々野ウォーキングに参加して佐々木小の子ども2人が目の前にいて、僕たちが住んでいるところこんなにすごいところなんだと言っていたのを聞いて、やっぱり自分たちのまちをプチ歴史でもいいので誇りに思うことが一つだと思います。もう一つは、霧島市がこんなに元気があるんだということを知ることだと思います。今日皆さんみたいな若い元気のある方がどんどん発信していただければ子どもたちも霧島市ってすごいなと思うと思います。これからはいろんな意味で発信していただければと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

須部) 山口副市長ありがとうございました。地元を知ることって大事ですよ、お昼ごろガストロノミーコンテストで実行委員長も話していましたが、地元を知ると、特産物

なんだろうとか強み弱みを知ることが大事だとおっしゃっていました。ジオパークがこのまちにあるってすごく素敵なことでいろんな産業に寄与しているということをおっしゃっていました。そういう機会を拓げていくことも大事だと思います。以上です、これまでお付き合いいただきありがとうございます。





グラフィックレコード
 戦略会議参加者
 田代明歩氏 作